

字幕翻訳に見られる諸問題

—— 映画の日本語・韓国語翻訳の場合 ——

金 銀 英

Common problems in Japanese and Korean language
movie subtitle translation

by

KIM Eunyoung

要旨

本稿は日韓翻訳研究の一環として、映画字幕翻訳における情報の取捨選択について考察している。日本の映画2本、韓国の映画2本から収集した用例から、言語の翻訳ではなく映像で伝える情報や文化的知識を要する翻訳の際、どのような翻訳をしているのか調査し、その妥当性について考察した。

今回の調査で問題と思われる翻訳は次の3通りに分けることができる。

1. 映像情報の誤った選択による翻訳、2. 制限により文化的背景の伝達が不十分だった翻訳、3. 不十分な下調べに起因する誤訳

映画は総合芸術と言われているように様々な要素を視覚・聴覚情報で観客に伝える。映画翻訳は様々な制限が敷かれており、翻訳者は翻訳する情報を常に取捨選択しなければならない。映画翻訳では俳優の肉声の翻訳が最も優先順位が高いが、次にどの情報を翻訳するかは翻訳者の選択によるものであり、この選択は観客の理解にも影響を与える。翻訳者はこのことに注意を払わなければならない。

この考察は、現在手つかず状態である日韓映像翻訳研究の基礎的研究であり、日韓翻訳研究及び映像翻訳研究に発展させたい。

キーワード：映画字幕翻訳、映像の情報、翻訳の取捨選択、韓国語からの翻訳、日本語からの翻訳

1 はじめに

近年の韓国映画の躍進は目を張るもので多くの韓国映画が日本で公開されている。2000年代頃から日本公開作品が増えてきたが、2010年代では韓国で公開された映画の2/3が日本に商業公開されるようになった。^{注1)} さらに最近のOTTサービスの拡大を背景にさらに広い層が韓国映画を楽しむようになり、本国韓国での公開から日本での公開までかかる時間も短くなっている。一方韓国における日本の実写映画は作品性、監督の作家性に重点を置いた公開が多い。アニメーション映画まで含むと結構な本数の日本映画が韓国で公開されるが、実写映画に限定すると日本における韓国映画の公開数に比べてその数は少ない。

翻訳研究において映像翻訳の研究は他のジャンルより遅れており、言語のみならず文化的背景まで表れる映画の特性からその殆どは外国語教育の観点で論じられ、翻訳法そのものの研究は少ないのが現状である。その数少ない翻訳法研究も英語圏映画をいかに翻訳するのか、もしくは自国の映画をいかに英語翻訳しているのかに偏っており、日本映画の韓国語訳、韓国映画の日本語訳に関する実証的翻訳研究は管見ではない。筆者は拙稿金（2005）、金（2021）、金（2021）で映画とドラマの翻訳の研究を続けてきたが、本稿では言葉の翻訳法ではなく、映像情報の翻訳、文化の翻訳について実例をもとにその翻訳法を考察する。^{注2) 注3) 注4)}

2 先行研究

字幕翻訳は音声から文字への異種記号タイプの翻訳で、観客の視覚情報処理能力と映像の兼ね合いで時間と文字数が決まっており、その過程で元のセリフが持つ情報の多くが失われる。^{注5)}

モナ・ベイカー（2013）でも、映像翻訳はマルチモード型でテキストを他の言語に換える作業と定義しており、起点テキストを目標テキストに換えるに当たって様々な要素が翻訳に関わるとしている。^{注6)} 日本語の字幕翻訳は、拙稿金（2021）で言及したように、その殆どは日本人観客が鑑賞するのに十分な情報を提供しており、小説翻訳で多く見られる逐語訳より意識が、字幕の文字制限による省略がよく見られる。^{注7)} 筆者が研究で用いた用例は翻訳のクオリティーを確保するため、ソフト化され販売される映像作品から収集したことにより、翻訳者の語学力に起因する誤訳はなかった。また、日本と韓国は同じ漢字文化圏に属しており隣国であるため文化理解度も高いことから翻訳者の文化の理解不足による誤訳もなかったが、観客の理解を助ける翻訳上の工夫も見られなかった。以上のことから韓国映画の日本語字幕翻訳、日本映画の字幕翻訳において言語の面で問題がある翻訳はないことが予測される。しかし、金

(2021) で指摘したように映画の時間制限による省略で文化的説明が省かれた翻訳がなされると予想できるため、本稿では言語以外の情報をいかに翻訳するか焦点を当てその実例から分析を行い翻訳法の考察を行う。^{注8)}

3 調査対象と用例の収集

調査の対象選定に当たり、上映後ソフト化され販売されている作品から選ぶことにした。近年は動画サイトに「ファン翻訳」をつけた映像物も多いが、それらは翻訳の質が担保されておらず、本研究のように翻訳法の考察に用いるには適しない。金(2021)では翻訳者名の明記までを翻訳の質を測る基準に加えたが、韓国語字幕には翻訳者名を明記する習慣がなく調べることができなかったため、今回の調査では翻訳者名の明記は基準に入れず、ソフト化されたことで翻訳の質が確保されたと見なした。ソフトを入手できる作品から、現代を時代背景にし、近年公開された作品を選定した結果、次の作品から用例を収集した。(表1)本文中作品名を記す場合は、表の下線部で示す。

表1 調査対象一覧

(原作の公開順)

	原題(時間) ----- 翻訳題	公開	監督	翻訳者	用例数
1	<u>そして父になる</u> (121分) ----- 그렇게 아버지가 된다	日 2013年9月 ----- 韓 2013年12月	是枝裕和	記載なし	1,433
2	<u>海街diary</u> (127分) ----- 바닷마을 다이어리	日 2015年6月 ----- 韓 2015年12月	是枝裕和	記載なし	2,088
3	<u>택시운전사</u> (137分) ----- <u>タクシー運転手</u> 約束は海を越えて	韓 2017年8月 ----- 日 2018年4月	チャン・フン	神田外国語大学 字幕監修: 本田恵子	1,526
4	<u>기생충</u> (132分) ----- <u>パラサイト</u> 半地下の家族	韓 2019年5月 ----- 日 2020年1月	ポン・ジュノ	根本理恵	1,801

用例収集と翻訳方法比較のため次の手順を取った。

- ①原音の文字起こし — 原作の内容把握
- ②比較対照 — 原音の文字起こしと字幕を上下に1対1比較
- ③字幕の確認 — 音声を消して字幕のみで見直し、原作内容との違和感・相違点を再確認

収集の例を示す。なお、それぞれの括弧と記号が示すのは次の通りである。

[] 用例番号と配役、原)：原作音声、字)：字幕、〔 〕：筆者による日本語逐語訳、【 】：韓国語の音をカタカナ表記、／：字幕中の改行、×：音声はあるが字幕が付かなかった場合

<例1>海街 シーン14

7 よ し の	原) よく来られたねえ
	字) - 어떻게 왔어? 〔どうやって来たの?〕

7 ち か	原) 夜勤明けでしょう?
	字) - 야근했잖아? 〔夜勤だったでしょう〕

8 ち の	原) 車で送ってくれたのよ、友達が。
	字) 친구가 차로 데려다 줬어. 〔友達が車で送ってくれた〕

9 ち の	原) あの子?
	字) - 저 아이야? 〔あの子なの〕

9 よ し の	原) うん
	字) - 응 〔うん〕

10 ち の	原) 初めまして
	字) 반가워요 〔会えてうれしい〕

11 ち の	原) 香田さちです。
	字) 코다 사치라고 해요 〔香田さちと言います〕

「12 す ず」	原) 浅野すずです
	字) 아사노 스즈예요 〔浅野すずです〕

『海街』シーン14は父親の葬儀で異母姉妹が初めて顔を合わせるシーンである。役者たちが短い台詞を交わすせいか逐語訳に近い字幕になっている。台詞が短くなるとその分台詞を言う時間も短く、用例7や9のように二人の台詞を一つの字幕で処理する方法を取っている。二人の台詞を同字幕で表す場合は字幕の初めに「- (ハイフン)」を付けて異なる人物の台詞であることを示している。また用例9よしの「うん」のような短い受け答えは多くの場合字幕を省略する。肯定の「うん」や否定の「うん」は韓国語でも「응【ウン】」や「응【ウウン】」と似たような音で同じ意味を表すので字幕を付けなくても理解が難しくないのであるが、答をはっきりしたい場面では字幕を付ける手法を取っていた。

<例2>パラサイト シーン30

「6 ギ ジ ョ ン」	原) 만지하 냄새야 〔半地下のにおいよ〕
	字) 半地下のにおいよ

「7 ギ ジ ョ ン」	原) 이 집을 떠나야 냄새가 없어진다구 〔この家を離れなければ消えないの〕
	字) ここを <u>出れば消える</u>

『パラサイト』シーン30はギジョンが家庭教師で教えているタソンからギジョン一家に同じ匂いがすると言われ、それがどんな匂いかをギジョンの家族同士が話し合うシーンであるが、用例6は短い逐語訳に、用例7は「～なければ～ない」を逐語訳で字幕にすると長くなるためシンプルな仮定文に変えて短く表した例である。

今回収集した用例は例1や例2のように意識などの翻訳法を取っているが内容伝達に不十分な字幕はなく、金(2021)での調査結果と変わりなかった。

では、言葉以外の翻訳についていくつかの例を取上げその翻訳法と妥当性を考察する。

4 言語外情報の翻訳

4・1 映像情報の翻訳

映画は俳優が発する台詞以外にも観客に情報を与えることができる。看板や道路案内、新聞や雑誌の記事を映すことで、つまり映像で情報を伝えられる。この映像情報の字幕の付け方では取捨選択が見られた。金（2021）でも言及したが、一つのショットに複数の文字情報が写っていても必要な情報のみを選択し字幕を付ける翻訳法を取っている。^{注9）} 高速道路の案内標識に複数の地名が映っていても映画の内容と直接かかわりのある地名のみ字幕で示す具合である。すべての地名に字幕を付けると観客をミスリードし、登場人物がどこに向かうのかを知らないまま映画を鑑賞することになる。

しかし有意味な映像情報であっても、字幕が付かない例があった。『タクシー』シーン 53 は主人公マンソプがメイン舞台である光州【クァンジュ】から近隣の順川【スンチョン】に移動して食事するシーンである。移動するショットに映る案内標識や食堂が入っているバスターミナルの看板に순천【スンチョン（順川）】と映るが字幕は付かなかった。マンソプの隣で食事する地元民の会話や光州とは異なる街の風景から観客はそこが光州でないことを推測するにとどまるしかない。特に順川バスターミナルの看板が映るショットは多数の看板が同時に映るため、ハングルが分かる日本人であっても瞬時に必要な情報を読みとるのは難しいと思われる。『タクシー』シーン 53 は地名の字幕が付いていれば観客がより明確に状況を理解できる例であったが、映像情報の選択を間違ったことで観客をミスリードする例もあった。

『パラサイト』シーン 22 では額縁に入っている雑誌の一ページが映る。初老の男性が露天カフェに座っている写真と記事で構成されたそのページは、韓国人でも記事の内容までは読みとれないが見出しの字の大きさは十分読み取れる大きさであり、読み取るだけの時間で映る。見出しの内容は「남궁현자 / 생제르맹데프레의 추억」[ナムグン・ヒョンジャ / サン・ジェルマン・デ・プレの思い出]であるが、このショットの字幕は「サン・ジェルマン・デ・プレの思い出」のみとなっている。남궁현자【ナムグン・ヒョンジャ】は映画の主舞台であるパク社長の自宅を設計した建築家で何年か前にその家をパク社長に譲り渡した人との設定である。度々フルネームで話題に乗り、パク社長の自宅の格が高いことを表す装置として使われるため、ナムグン・ヒョンジャが設計した家に彼の雑誌記事が飾られているのは自然な事である。しかし、日本語字幕のみで鑑賞すると急に額縁に入った雑誌記事が映り「サン・ジェルマン・デ・プレの思い出」と字幕が出るがそのことが映画の筋にどう関わるのか違和感を覚えるはずである。ここで翻訳すべきは「ナムグン・ヒョンジャ」であり、「サン・ジェルマン・デ・プレの思い出」ではない。映像に映る見出しのフォントサイズも「남궁현자【ナムグン・ヒョ

ンジャ】の方が大きく識別しやすいようになっている。映像情報を伝えるにあたって翻訳すべき情報を選択するのであれば、『タクシー』の高速道路の案内標識のように映画の内容により有意義な情報を選択すべきであり、ミスリードの恐れがあれば字幕を付けない方がいいと思われる。

4・2 文化的背景の翻訳

金(2021)でも言及したが、象徴性を持つ事物の翻訳には工夫が必要である。^{注10)}

『タクシー』シーン42に出る「갇김치【カッキムチ(芥子菜キムチ)】」をただの「キムチ」に翻訳したことで、観客は有り合わせの常備食で客をもてなすと理解するが、芥子菜で漬けたキムチは光州が位置する韓国西南部の名物キムチであり、余所から訪れた客をもてなすのに遜色ない品である。主人であるファン運転手が言う「아이 갇김치 있으면 됐지 뭘 [芥子菜キムチがあれば十分だ]」は有り合わせでなんとか夕食を出してほしいとの意味でなく、自慢の名物キムチで十分なもてなしになるとの意味である。続くシーン43では色んな料理で埋め尽くされた卓袱台が映るが主人のファンが客人たちに真っ先に勧めるのは芥子菜キムチであることから、ファンが芥子菜キムチを自慢に思っているのが分かる。芥子菜キムチをただの「キムチ」に翻訳するのは説明不足な字幕と思われる。光州の人達にとっての芥子菜キムチの象徴性を限られた時間に説明するのが難しくても何か特別な物であることが分かるような字幕にすべきではなからうか。

『パラサイト』にも類似した翻訳の例が見られる。シーン37から出てくる짜파구리【チャパグリ】と関わる翻訳であるが、チャパグリは「チャパゲッティ」と「ノグリ」という二種類の即席麺で作る麺料理である。幼稚園児から小学生までの子供数名が父親たちと旅に出るバラエティー番組で紹介され人気になった料理法で、子供が好むとのイメージが付いている。シーン37でチャパグリを作るよう頼まれたチュスクは成人した子供しかおらず、チャパグリの作り方を調べながら調理し、散らかしていた台所を片付けるという大騒動に見舞われる。このチャパグリを字幕では「ジャージャー・ラーメン」と翻訳している。「チャパゲッティ」が中華麺のジャージャー麺のインスタント麺であり、「ノグリ」が辛口うどんであるため、「チャパゲッティ」から「ジャージャー」を取り日本人が連想するうどんとはかけ離れた辛口うどんは「(韓国のインスタント) ラーメン」に見立て二つをくっつけた翻訳と思われる。これだけの情報を字幕に入れるのはなかなか難しいことであるが、どこかで小学生が好む即席料理との情報が入っていれば、この後加わる要求がいかに滑稽であることが分かり易いはずである。チャパグリを作るよう頼んだヨンギョはさらに「한우 채끝살 [韓牛のトップサーロイン]」も入れるように注文する。この部位は韓国国産牛の一头当たり8kgくらいしか取れない高級肉で、パク社長の財力を見せつける描写でもあるが、子供が夜食で食べる即席麺に高級肉を入れるのは『パ

ラサイト』のブラックユーモアの装置として働いている。チュンスクが大慌てで作ったトップサーロイン入りチャパグリはシーン 38 で子供が食べたがらず仕方なくヨンギョが食べることになる。

日本映画でも類似する翻訳が見られた。

<例 3> 父になる シーン 21

〔9 良多〕	原) あ、お母さん、これ先 渡しそびれちゃって
	字) 어머니, 이거 아까 / 드린다는 거 깜박하고 〔お母さん、これ先 / 差し上げるのをうっかりして〕

〔10 里子〕	原) ああ嬉しい <u>虎屋</u> じゃない
	字) 이건 “호랑이 과자점” 거잖아 〔これは“ <u>虎の菓子店</u> ”のものじゃない〕

〔11 里子〕	原) この重さだと羊羹かしらね
	字) 이 정도 무게면 양갱인가? 〔これくらいの重さだと羊羹かな?〕

『父になる』シーン 21 は主人公良多が妻の母里子に手土産として虎屋の羊羹を渡すシーンである。韓国人観客には手土産としての「虎屋」の羊羹が分からないため、年配の人が好むお菓子として「羊羹」を持っていたと理解する。羊羹をもらいとても喜ぶ里子の姿だけで観客はこのシーンを理解するが「호랑이 과자점 [虎の菓子店]」の前に「그 유명한 [あの有名な]」と補足説明を加えたら韓国人観客の理解を助けたのではなかろうか。

時代背景を現代に限定して調査対象を選定したため、説明を要する文化的背景は少なかったが芥子菜キムチやチャパグリ、虎屋の羊羹の含意まで翻訳できていれば観客はさらに理解を深めることが出来たと思われる例であった。

4・3 下調べを要する翻訳

今回収集した用例の中最も首を傾げるような翻訳は<例 4>である。

<例4>海街 シーン81

- 〔1
坂
下〕
- 原) 弟さんがいらしたんですか?
吹) 동생분이 있으셨어요?
〔弟さんがいらっしゃいましたか〕
- 〔2
福
田〕
- 原) おばあちゃんにね、勘当されて出ていったんよ
字) 엄마한테 쫓겨나서 / 집에서 나갔지
〔(二ノ宮の) お母さん追い出されて / 家出した〕

中略

- 〔4
二
ノ
宮〕
- 原) それが急に連絡が入ってさ、、、
字) 그런데 갑자기 / 연락이 와서
〔ところで急に / 連絡が来て〕

- 〔5
二
ノ
宮〕
- 原) 亡くなった母の遺産寄こせて
字) 엄마 유산을 / 내놓으라고 하네
〔お母さんの遺産を / 差し出せと言うの〕

中略

- 〔8
二
ノ
宮〕
- 原) そんなこと言ったって
字) 내놓으라고 해도
〔差し出せと言っても〕

- 〔9
二
ノ
宮〕
- 原) こんな店以外なんにもないのにさ、、、
字) 이 가게가 전부인데
〔この店が全てなのに〕

- 〔10
二
ノ
宮〕
- 原) だったら店売れて、、、
字) 그랬더니 / 가게를 팔라잖아
〔そしたら / 店を売れと言うじゃない〕

〔11
福田〕

- 原) なんとかここだけは残せんかねーち思いよったんやけどね
 字) 어떻게든 여기는 / 지켜 보려고 했는데
 [どうにかここは / 守ろうとしたけど]

中略

〔13
福田〕

- 原) もうおばちゃんにしてみたら
 字) 집사람한테는
 [家内には]

〔14
福田〕

- 原) もうこの店はたったひとつの宝物やけ、
 字) 이 가게가 유일한 / 보물이잖아
 [この店が唯一の / 宝物じゃない]

用例13の「おばちゃん」は子供の時から店に通っている「よしの」が同席しているための呼称であるが、韓国語字幕は「아줌마 [おばさん]」ではなく「집사람 [家内]」になっている。筆者が違和感を覚えたのは福田と二ノ宮が結婚しているとの印象が無かったためである。福田が劇中名字で呼ばれるのは終盤のシーン140になってからであるが、シーン140には二ノ宮の名字が文字で画面に映るショットがある。二ノ宮と福田の婚姻関係の有無は映画の筋に影響を与えないが、日本は夫婦が同じ姓を名乗る家族制度を取っているという基礎的な知識があればシーン81の用例13で「집사람 [家内]」と訳さないはずである。

映画「海街 diary」は吉田秋生の同名コミックスが原作であり、小学館発行の月刊 flowers で2006年から連載が始まり2018年の月刊 flowers 8月号で最終回を迎えた。^{注11)} 実写映画は連載中の2015年に公開されているため原作内容すべてが映画化されたのではない。原作は単行本で8冊分の分量があり、原作者の前後作品との繋がりも持つため原作の全般を把握するのは大変な努力を要するが、そのような作業がなくても二人が別々の姓を名乗っているのであれば、「집사람 [家内]」と過大解釈せず「이 사람 [この人]」にするか逐語訳の「아줌마 [おばさん]」にすべきであった。

『海街』の翻訳にはもう一つ疑問に思う翻訳がある。それは「海猫」の看板の翻訳である。海岸近くに位置する大衆食堂「海猫」であるため筆者はカモメ科のウミネコと理解したが、字幕は「바다 고양이 [海の猫 (ネコ科の猫)]」になっていた。看板の字幕について筆者も原作内容を全部把握していないため誤訳とは断言できないが、『海街』のように背景設定を有する作品はその下調べも徹底する必要があることを確認できた例であった。

5 結び

翻訳研究はどうしても言葉を言葉に換えるところに注目しがちだが、言葉以外の情報伝達手段を有する媒体の翻訳研究はそれだけにとどまてはいけない。今回の調査で言葉以外の要素の翻訳から説明不足や観客をミスリードする翻訳例が確認できた。阿部（2005）は従来の翻訳手法に留まることなくさらに映画の様々な要素を視野に入れ、字幕の文字数ルールと言う縛りも見直すべきと述べている。^{注12)} 映画翻訳は該当するショットが続く時間に収まる翻訳を求められるが、制限された時間と使用できる文字数の中で観客の理解を助ける工夫をしなければならない。観客に必要な情報を省略したり、不必要な情報を伝えたりするのは良い翻訳とは言い難い。映画の筋には影響を与えないが、登場人物間の関係の理解を助けるため一言加え、または敢えて好奇心を起こすような翻訳も有効であろう。さらに原作を有する映画の翻訳は下調べが必要である。

今回の調査は対象作品の選定で大変苦勞をした。韓国で上映する日本の実写映画本数と日本で上映される韓国映画本数の差、さらにソフト化となるとその数はさらに少なくなるが、これからできる限り作品を集め用例数を増やしたい。

今回の考察は、研究が進んでいない日韓映像翻訳研究の基礎的研究であり、この研究を日韓翻訳研究及び映像翻訳研究に発展させたい。

参考文献

- (1) 西村嘉夫：＜韓国文化＞韓国映画の日本公開が増大，東洋経済日報，2012年12月7日
- (2) 金銀英：対象言語研究資料としてのドラマ吹替え版，福岡大学大学院論集，37（1），pp1-18，2005
- (3) 金銀英：字幕と吹き替えの翻訳傾向—韓国映画の日本語翻訳を中心に—，下関短期大学紀要，39，pp1-13，2021
- (4) （金銀英：映画における字幕と吹き替えの翻訳，東アジア日本語教育・日本文化研究学会 2021年度国際学術大会口頭発表（及び要旨集），2021）
- (5) 島田（2009）によると、日本語字幕のルールは1秒に3～4文字、縦字幕で1行12字、最大2行までとなっている。近年増えたテレビやDVDの横字幕でも1行15字前後、最大2行までである。
島田洋子：翻訳であって翻訳でない字幕翻訳，聖学院大学総合研究所 Newsletter Vol1. 19-3，pp2-3，2009
- (6) モナ・ベイカー他：『翻訳研究のキーワード』，研究社，2013
- (7) 前掲注（3），p5
- (8) 前掲注（3），p9-10
- (9) 前掲注（3），p6-7
- (10) 前掲注（3），p10
- (11) コミックナタリー，2018年5月28日，<https://natalie.mu/comic/news/284035>，2021.09.07 アクセス

- (12) 阿部・マーク・ノーネス, 山本直樹訳: 悪態の字幕のために—映画翻訳装置の露出—, 言語文化, 22, 明治学院大学言語文化研究所, pp161-195, 2005